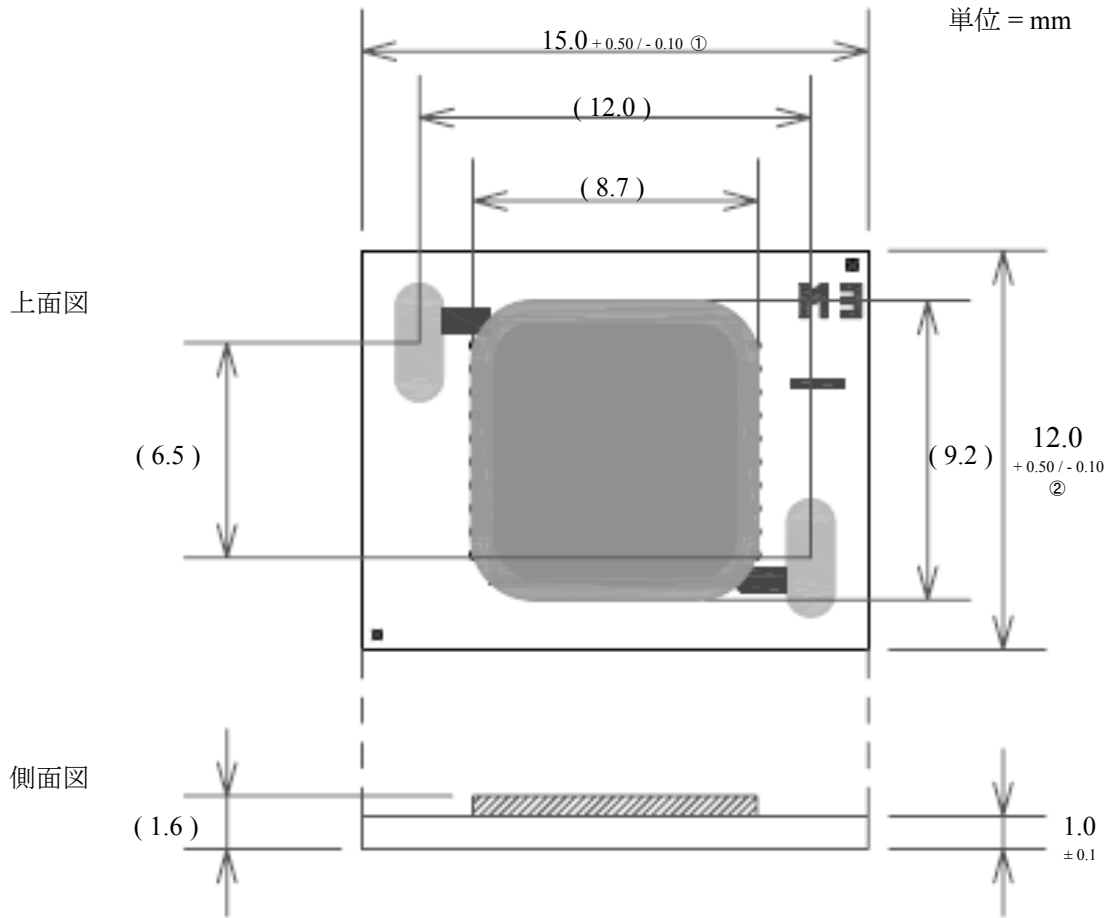
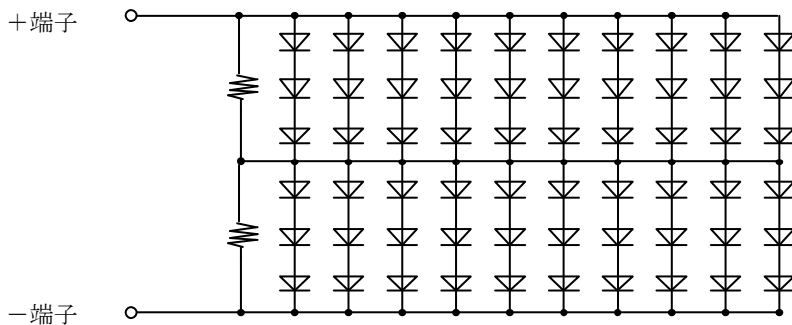


2. 外形及び内部等価回路図



( ) 内の数値は参考値です。保証値ではありません。  
 外形サイズ①、②は各辺の最大寸法にて規定されます。



6 直列 × 10 並列 = 60 個のLEDチップを使用

単位	材質	図番
mm	ベース基板： アルミナセラミック	52206005

## 3. 定格及び特性

## 3-1. 絶対最大定格

項目	記号	定格	単位
許容損失 (注1,4)	P	12.6	W
順電流 (注1,4)	$I_F$	600	mA
逆電圧 (注2,4)	$V_R$	-15	V
動作温度 (注3)	$T_{opr}$	-30 ~ +90	°C
保存温度	$T_{stg}$	-40 ~ +100	°C

(注1) 許容損失、順電流は、適切な放熱器を使用してケース温度が定格を超えないように設定した場合の値です。

(注2) 逆電圧の最大定格は、初期の接続ミス等での耐電圧を想定したもので、逆電圧を常時印加する場合は想定していません。

(注3) ケース温度  $T_c$ 。(4頁：ケース温度測定箇所を参照下さい。)

動作電流値は、4頁の低減曲線に従います。

電極部のはんだ付けについては、クリープ等が生じる可能性がありますので、使用環境での信頼性を十分にご検討の上、ご使用ください。

(注4)  $T_c = 25\text{ °C}$

## 3-2. 電氣的及び光学的特性

(T<sub>c</sub> = 25 °C)

**	項目	記号	条件	最小	標準	最大	単位
共通	順電圧 (注5)	V <sub>F</sub>	I <sub>F</sub> = 480 mA	18.0	(19.6)	21.0	V
27	光束 (注6)	Φ	I <sub>F</sub> = 480 mA	540	(610)	-	lm
	色度座標 (注7)	x		-	(0.464)	-	-
		y		-	(0.418)	-	-
	色温度	-		(2600)	(2700)	(2800)	K
平均演色評価数 (注8)	Ra	81	(85)	-	-		
30	光束 (注6)	Φ	I <sub>F</sub> = 480 mA	560	(630)	-	lm
	色度座標 (注7)	x		-	(0.435)	-	-
		y		-	(0.403)	-	-
	色温度	-		(2900)	(3025)	(3150)	K
平均演色評価数 (注8)	Ra	83	(87)	-	-		
35	光束 (注6)	Φ	I <sub>F</sub> = 480 mA	580	(650)	-	lm
	色度座標 (注7)	x		-	(0.409)	-	-
		y		-	(0.393)	-	-
	色温度	-		(3300)	(3450)	(3600)	K
平均演色評価数 (注8)	Ra	83	(87)	-	-		
40	光束 (注6)	Φ	I <sub>F</sub> = 480 mA	600	(670)	-	lm
	色度座標 (注7)	x		-	(0.381)	-	-
		y		-	(0.383)	-	-
	色温度	-		(3900)	(4050)	(4200)	K
平均演色評価数 (注8)	Ra	83	(87)	-	-		
50	光束 (注6)	Φ	I <sub>F</sub> = 480 mA	620	(690)	-	lm
	色度座標 (注7)	x		-	(0.346)	-	-
		y		-	(0.360)	-	-
	色温度	-		(4745)	(5000)	(5311)	K
平均演色評価数 (注8)	Ra	83	(87)	-	-		
65	光束 (注6)	Φ	I <sub>F</sub> = 480 mA	620	(690)	-	lm
	色度座標 (注7)	x		-	(0.313)	-	-
		y		-	(0.332)	-	-
	色温度	-		(6020)	(6500)	(7040)	K
平均演色評価数 (注8)	Ra	81	(85)	-	-		

( ) 内数値は参考値です。

(注5) (20 ms 通電後、測定公差 ± 3 %)

(注6) 光束測定は、シャープ標準の8インチ積分球 + 大塚電子製 LE-3400にて測定。

(20 ms 通電後、測定公差 ± 20 %)

(注7) 色度座標測定は、シャープ標準の8インチ積分球 + 大塚電子製 LE-3400にて測定。

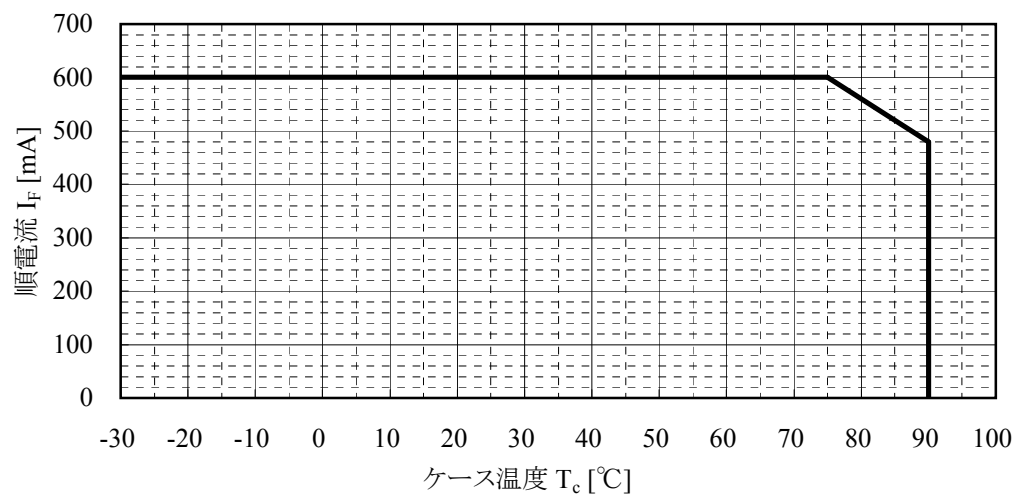
(20 ms 通電後、測定公差 ± 0.01)

(注8) 平均演色評価数測定は、シャープ標準の8インチ積分球 + 大塚電子製 LE-3400にて測定。

(20 ms 通電後、測定公差 ± 4%)

## 3-3. 低減曲線

順電流低減曲線



(注) ケース温度を定格内にするためには、適切な放熱器を使用して放熱を確保する必要があります。

電極部のはんだ付けについては、クリープ等が生じる可能性がありますので、使用環境での信頼性を十分にご検討の上、ご使用ください。

(ケース温度測定箇所)

